

山形支店

「SEADS」研修生に 出張講義

山形県鶴岡市は2020年に、「鶴岡市立農業経営者育成学校（通称：SEADS）」を開設。農業に関心の高い若者を募集し、農業を経営する人材を育成しています。

山形支店では、「事例から学ぶ農業経営の始め方」と題し、講義。新規就農事例や失敗事例から、新規就農の難しさ、対策などについて説明しました。研修生から、就農時の資金調達について具体的な質問があり、また「具体的な事例を知ることができ有意義だった」などの感想が寄せられました。

10月21日、於：鶴岡市、参加者：研修生9人



全国から集まった精鋭の研修生

大津支店

人材活用の課題に 熱い議論

国内市場縮小、気候変動などの激しい環境変化のもと、農業経営と農政の新しい展望を探るため、「次世代農業経営勉強会」を開催。若手経営者有志が課題を持ち寄り、自由闊達に意見交換をし、継続的に交流することが会の目的です。

第1回の今回は、人材の採用、育成をテーマとしました。出席者からは「従業員が働きやすい環境をつくることが重要」「従業員の目的を叶える場になる」との発言があり、熱い議論が交わされました。

11月11日、於：大津市、参加者：若手農業経営者6人、近畿農政局滋賀県拠点と共催



互いの取り組みを熱心に聴く

広島支店

経営の多角化めざす 取り組みに学ぶ

広島支店では、農業経営アドバイザーのスキルアップを目的に研修会を毎年開催しています。

セミナーでは、コロナ後を見据えイチゴ観光農園を開始したコマツナなどを生産する中池哲平氏が、経営の紹介とともに、今後の事業展開などを発表。そのうえで、専門家のアドバイスを情報提供がいかに重要かを力説しました。

参加者からは「今後アドバイザー活動をおこなううえでのヒントが得られた」などの感想が寄せられました。

11月24日、於：広島市、参加者：農業経営アドバイザー他42人



観光農園開園までの苦労やコロナ対策なども発表する中池氏

仙台支店

コロナ禍における 次の一手を考える

コロナ禍における事業の再構築を検討する機会として、東北大学、中小機構と連携しオンラインセミナーを6～9月に開催。農業、宿泊業、飲食業、製造業などの多様な業種の経営者の参加がありました。

第1回は、新たな事業展開のアイデアをグループに分かれディスカッション。第2回は、「経営理念、経営ビジョン」を明確にしたうえで経営戦略を検討することの重要性や意義について、事例をもとに講師から説明を受けました。第3回は、経営課題の解決策を「デザイン思考」の手法を取り入れ議論しました。第4回では、損益管理の視点を用以販売戦略を検討する方法をもとに、自社の事業戦略を再構築する際のポイントを学びました。

参加者からは「実践的なアドバイスを今後の経営に生かす」「セミナーで出会った異業種との新規取引を開始した」などの感想が聞かれました。

開催日：6～9月に全4回、開催形式：オンライン、参加者：公庫のお客さまなど33人

◆2年前から棚田で米づくりを始めました。親戚の棚田を手伝う程度でしたが、「やめる」と聞き、つい「私がします」と宣言しました。朝早く出勤前に棚田に行き、業後も日が暮れるまで動く。

1反(5枚)程度なので、耕作はそれほど苦にならないのですが、水源が難しい。500mほどのけもの道経由で谷からホースで水を引きますが、台風などの大雨が降ると取水口がすぐ切れてしまいます。また、途中のホースにエアがかむと断水して、大事な時期に水がなくなります。そして、ノビエなど、はびこった雑草にも苦戦しました。

1年目は取水口を細工し、エア抜きのコツを覚え、ひたすら草を引きました。すると2年目はずい

ぶん改善され、収量は推定で2割増になりました。量もさることながら自分でつくった米はうまい。毎日のご飯の味がブランド米のように感じられます。

農地の事業承継は難しい問題ですが、権利ではなく利用という観点に切り換え、生業でなくても農を楽しむ収穫を喜ぶという視点での持続可能性を模索するのはどうでしょう。

ベテラン農家が、指導者として若者や一般の方に教えながら耕作を続ける、という選択肢を用意できないかと思います。

農業を支えるなど理屈はなくていい。まず農を楽しむ、みずから生み出す食の喜びにチャレンジする人を増やしたい。

(宮崎県諸塚村 矢房孝広)

ご意見・ご感想をお寄せください

『AFCフォーラム』は農林漁業者、食品事業者の皆さまに役立つ誌面づくりをめざしています。参考になった記事、取り上げてほしい企画、お気付きの点など、メール、FAX、電話、郵送で編集部までお寄せください。掲載させていただいた方には薄謝を進呈します。

メール anjoho@jfc.go.jp

※こちらのコードもお使いください →



FAX 03-3270-2350

電話 03-3270-2268

郵送 〒100-0004

東京都千代田区大手町1-9-4

日本公庫農林水産事業本部情報企画部

AFCフォーラム編集部あて

AFCフォーラム Forum 2022.2

編集

前田 美幸 今村 潤 高雄 和彦
山本 晶子 大谷 香織 城間 綾子
竹中 夕美

編集協力

青木 宏高 村田 泰夫

発行

株式会社日本政策金融公庫
農林水産事業本部
〒100-0004
東京都千代田区大手町1-9-4
大手町フィナンシャルシティ ノースタワー
Tel. 03(3270)2268
Fax. 03(3270)2350
E-mail anjoho@jfc.go.jp
ホームページ <https://www.jfc.go.jp/>

印刷 株式会社佐伯コミュニケーションズ

販売

株式会社日本食糧新聞社
〒104-0032
東京都中央区八丁堀2-14-4 ヤブ原ビル
Tel. 03(3537)1311
Fax. 03(3537)1071
ホームページ
<http://info.nissyoku.co.jp/koudoku/>
お問い合わせフォーム
http://info.nissyoku.co.jp/modules/form_mail/

■定価 523円(税込)

編集後記

◆特集は「持続可能な林業」がテーマです。海外からのサプライチェーン停滞による「ウッドショック」に見舞われ国産材は数十年振りの高値を記録するなど、林業・林産加工業界は将来への持続性が問われています。佐伯広域森林組合の「佐伯型循環林業」モデルはショックにぶれることなく、次世代へ向けた先進的な挑戦に違いない。必読です。(今村)

◆「新林業人」の東京チェンソーズ。販売している木材・枝や葉は、現地に来て、これら商品の質感を直接確かめ、イメージを膨らませながら購入を検討するデザイナーやメディア関係者なども多いとのこと。オミクロン株感染が拡大していますが、安心して現地を訪れ、商品に触れる環境が戻ることを願うばかりです。(高雄)

◆「変革は人にあり」中国木材の堀川会長にご登壇いただきました。高松支店に勤務していた5年ほど前、当社工場を訪問し、ずらりと並ぶ原木や大型機械に圧倒されたのを覚えていますが。国産材時代の風を起こされている堀川会長。「貧乏したことが財産」という言葉が印象的で、「変革の人」に熱く語っていただきました。(大谷)

◆表紙写真は、今月のフォーラムエッセイの動物写真家・宮崎学さんの作品です。私事ですが、年末に東京都写真美術館での写真展を拝見、普段は見ることもない素の動物たちの迫力に圧倒されるとともに、森林は彼らの生きる場所でもあることを認識しました。巻頭言の山折哲雄さんが言われる「万物の多様性」を思わずにはいられません。(城間)